

ぼくのべんととう

鹿児島県 屋久島町立宮浦小学校二年 本村 一志

「きょうも、おべんとうおいしかったよ。とくに、たまごやきがおいしかったよ。」
と、おとうさんがでん話で、言ってくれます。

ぼくは、おかあさんのしごとで一年生のころから、やくしまにすんでいます。おとうさんは、さつま町のやくばで、しごとをしています。時どき、かぞくみんなのかおを見に、やくしまにきてくれます。土曜日の朝、一ばん早いこうそくせんできて、日曜日の一ばんさいこのびんでかえります。きつと、ぼくたちと、いつしよにいたいからだと思えます。ぼくたちきょうだい三人ともおとうさんに、ながくいてほしいので、

「おねがい。さいしゅうでかえって。」
と言います。

さいしゅうでかえると、かごしまにつくのは夜です。だから、ぼくは、おとうさんに、べんとうをつくってあげます。

ぼくは、りょうりが大すぎです。おとうさんは、あまいたまごやきがすきななので、さとうをすこし多く入れてやいてまきます。

「あぶらを入れすぎると、太るよ。」と、おかあさんがいつも言っているの、あぶらはすくなめです。クルクルまくのもじょうずになりました。そのほか、プロッコリーをゆでたり、ベーコンまきをやいたりして、べんとうのかんせいです。おねえちゃんには、いつもいつも、そのべんとうの下に、手紙を書いて入れています。かえりついてから、おとうさんが、でん話で、

「ありがとう。」

と言ってくれるのがたのしみです。ぼくは、目がしみて、玉ねぎが切れません。早く切れるようになって、もっとおいしいべんとうをつくってあげたいです。